

## 文理のリバランス、文理分断からの脱却に向けて（意見要旨）

### ○議論のポイント

高校段階で文理分断される現状を踏まえ、7割を占める高校普通科の改革を進めていくための具体的なインセンティブ設計としてどのような視点があるか。・・・【資料3】P14より

### 1. 高校普通科改革推進のための具体的なインセンティブ設計

文理分断からの脱却を先導する「学際領域に関する学科」「地域社会に関する学科」に対して、教職員加配及びコーディネーター人材の配置等のリソースの重点的な再配分（高校標準法体系の改正等）を行うとともに、特例校制度等も活用し 必履修教科・科目も含む教科横断の探究的な学びやSTEAM教育（例：芸術と数学の融合科目の設定等）を促進するために「学校が設定した教科・科目の履修によって必履修教科・科目の履修と同様の成果が期待できる場合においては、その教科・科目の履修をもって、必履修教科・科目の履修の一部又は全部に替えることができる」ようにし、普通科改革を強力に後押しする。

また、必要に応じて 教員免許制度や地方公務員制度の改正を行い、博士号取得者やアスリート、プログラマーなど 多様な専門人材が、兼職・兼業やクロスアポイントメント等も含めて教員として教育に携わりやすくする。

### 2. 社会構造全体を俯瞰した視点でのSTEAM教育のエコシステム構築

初等中等教育～高等教育段階の縦のつながりによるSTEAM教育のエコシステムを社会全体で構築していくためには、各教育機関が入学してきた「今の」生徒・学生の教育だけを考える閉ざされた構造を打破し、各教育機関が今後の入学希望者にもなりうる「次の」生徒・学生の育成（例：大学による高校生へのSTEAM教育、高専による中学生へのアウトリーチ活動等）にも目を向け、手を伸ばすようになる仕掛けづくりが必要である。その際、CSR/CSVやESG投資といった社会の潮流を踏まえ、入学してきた生徒・学生の教育だけでなく 次代の生徒・学生に向けたSTEAM教育・人材投資にも目を向け 中長期的な視点で取り組む教育機関にインセンティブが働く設計を検討する 必要がある。

特に、国費を投じる事業の成果は対象教育機関・対象者のみならず社会の財産でもあるため、事業成果の一部を社会や次代の子どもたちへの教育へ還元していくことを「社会的責任」として促していく べきではないか（例：科研費等での研究成果をSTEAMライブラリーにコンテンツ化するなど）。

具体的には、各段階において例えば以下のような検討が必要ではないか。

(1)高校

- ・ SSH 等の指定高校は、地域の STEAM 教育の拠点として、小・中学校との連携及び小中学生へのアウトリーチ活動、ギフテッドへの教育支援等を推進（そのために必要な 教員・コーディネーター人材の配置）

(2)高専

- ・ 高専と高校等との連携及び越境学習による、文理融合・協働的な学びを推進
- ・ 地域における STEAM 教育のセンター的役割機能を明確化・強化し、小・中学校との連携及び小中学生へのアウトリーチ活動、ファブラボ化等を推進（そのための資源の再配分）

(3)大学

- ・ 高大連携による次代の STEAM 人材の育成・確保を推進（国費の事業を受ける際には、高校生へのアウトリーチ教育、先取り履修等の高大接続を要件化等）
- ・ STEAM 教育等で身につけた探究力を評価する科学的知見を踏まえた方法論の確立と大学入試での活用促進
- ・ 学部分野のポートフォリオの是正（文理定員のリバランス）